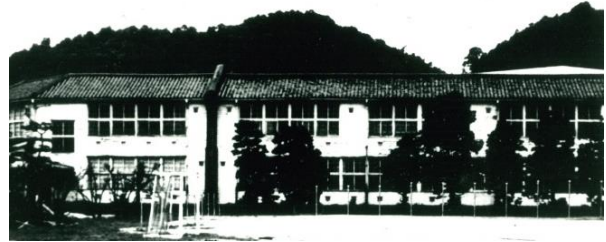


# 各学部の発展 (法人化まで)

## 文理学部

### 1949 山口大学文理学部を設置(昭和24年)

人文科学・自然科学の各分野に亘る総合的な教育や研究に重きを置き、広い基盤に立つ専門教育を行うことを目的として設置された。



糸米時代の文理学部校舎  
(昭和24年頃)

### 1954 山口市糸米から山口市後河原に移転(昭和29年)



経済学部講堂付近から望む理科棟  
(昭和36年頃)



文理学部校舎・文学部の教室と研究室  
(昭和42年頃)



本学では元々経済学部・教育学部と集合させる計画で、糸米の文理学部と後河原の新制山口高等学校東西両校舎の交換を希望していたが交渉は進まなかった。結局、昭和27年に、山口高等学校東校舎が火災により焼失したことが契機になり実現した。

### 1966 文理学部の改組と教養部の設置(昭和41年)

### 1968 山口市吉田に移転(昭和43年)



吉田キャンパスの文理学部(昭和52年頃)  
現在は理学部の校舎となっているが、文理学部時代は文学部が主として前列棟の正面玄関から向って左半分の2~4階を使用。

### 1970 理学専攻科を設置(昭和45年)

### 1972 文学専攻科を設置(昭和47年)

## 1978 文理学部を改組し、人文学部と理学部を設置(昭和53年)

高等教育の普及に対応して、人文諸科学の専門的知識を学び、かつ幅広い教養を身につけた人間性豊かな優位の人材を育成するという時代的・社会的要請に応えることを目的として、文理学部を改組し、人文学部と理学部が設置された。

### 人文学部・人文科学研究科

## 1978 人文学部を設置(昭和53年)

## 1979 人文学部棟竣工、学芸員資格課程開始(昭和54年)



考古学専攻の野外実習風景(昭和54年頃)



人文学部棟竣工(昭和54年)

## 1985 人文科学研究科(修士課程)を設置(昭和60年)

より広い視野にたつて総合的かつ精深・高度な学識を授け、学術研究の成果をもって社会の要請に応えることを目的として設置された。

### 図書館司書資格課程開始

## 1993 大講座制・コース制へ改編(平成5年)

専門性と学際性・総合性を共有して、学生の多様な関心に対応して研究と教育の有機的一体化を実現するための改組を行う。



研究室の様子



国語国文研究室による狂言



### 生涯学習

人文学部では人間と文化を探求するという学問分野を活かして、早くから生涯学習に取り組んできた。人文学部で開講の「サタデー・カレッジ」や学外に出向いて行う「公開講演会」「出前授業」など、地域の方や高校生を対象として幅広く実施し、現在も地域連携推進センターと連携し、生涯学習を推進している。



公開講座の様子(平成8年)

## 理学部・理工学研究科

**1978** 理学部を設置(昭和53年)

**1982** 理学研究科(修士課程)を設置(昭和57年)

自然科学分野の急速な発展に対応し、高度な専門的知識並びに研究能力を有する人材を養成することを目的に設置された。

**1990** 情報基礎の講座を新設(平成2年)

専門性と学際性・総合性を共有して、学生の多様な関心に対応して研究と教育の有機的一体化を実現するための改組を行う。

**機器分析センターを設置**



機器分析センター設置

**1995** 学科の改組(平成7年)

学部発足以来の5学科を、数理科学科、自然情報科学科、化学・地球科学科の3学科に改組。

**1997** 理学研究科を廃止し、工学研究科を理工学研究科(博士前期・後期)に改組(平成9年)

※工学部も関連

工学及び理学分野の融合により、新たな学際領域の開発と創造的科学技术の発展を促進する高度技術者・研究者の育成を目的に設置された。



化学実習風景



情報処理実習風景



### サイエンスワールド

一般の方、特に小・中・高生に理学部での研究を知ってもらおうとともに、科学のおもしろさ、魅力をアピールすることを目的に、平成11年から開催(初年度は「理学部先端科学フェスティバル」)。学生の企画による展示や実験のデモンストレーションなど自然科学を存分に楽しんでもらうイベントとして、家族連れなど、毎年多くの来場者を集めている。



サイエンスワールドの様子

## 教育学部・教育学研究科

### 1949 山口大学教育学部を設置(昭和24年)

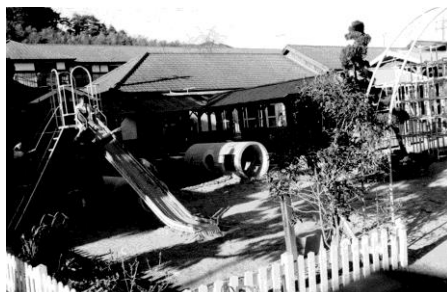
戦前の師範学校による教員養成への反省から、教員養成は幅広い視野と高度な専門知識・技能を兼ね備えた多様な人材を広く求めることを目的として、教員養成は大学で行うことの原則に従い、「山口師範学校」と「山口青年師範学校」を包括し、新制の教育学部が発足した。

光分校、防府分校を設置。附属山口小学校、光小学校、山口中学校、光中学校を設置。

### 1957 光分校を山口本校へ統合移転 光分校を廃止(昭和32年)

### 1960 防府分校を山口本校へ統合移転 防府分校を廃止(昭和35年)

### 1966 養護学校教員養成課程を設置、附属幼稚園を設置(昭和41年)



附属幼稚園誕生(昭和41年)

### 1972 山口市亀山から吉田に移転(昭和47年)



移転前の教育学部(昭和42年)



吉田キャンパスの教育学部棟(昭和52年)

### 1979 附属養護学校を設置(昭和54年)

## 1987 教育実践研究指導センターを設置(昭和62年)



教育実践研究指導センター開所式

## 1989 総合文化教育課程を設置(平成元年)

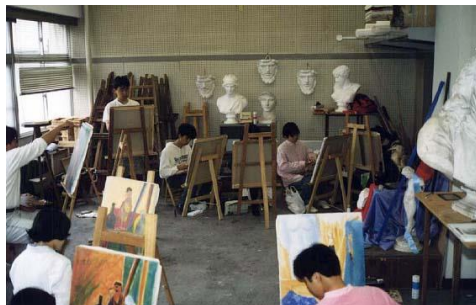
少子化に伴う教員需要の減少により、教員になれない学生が増えてきたこと、及び国際化・情報化が急速に進んでいく社会情勢を踏まえて、教育界以外にも対応できるような資質をもった幅広い人材育成を目的として設置された。

## 1991 教育学研究科を設置(平成3年)

学部における教員養成教育の充実・発展を基盤とし、それとの有機的連携の上で、学校教育に関する教育科学のより深い研究と、各教科の教育内容を基礎づける科学・技術・芸術の専門的研究との総合からなる理論的・実践的力量と識見をもち、教育実践の場で教育・研究を強力に推進しうる指導的教員の養成を行うことを目的として設置された。

## 1998 課程の改組(平成10年)

課程の統合を行うとともに、多様に変化する社会で、広義で輻輳する領域の問題に対処できる人材の育成を目指し、教員養成に捉われない課程の領域を増設した。



美術の授業風景



附属光小学校での教育実習風景



附属山口小学校・幼稚園(平成10年)



附属山口中学校(平成10年)



附属特別支援学校(平成10年)  
※当時は附属養護学校



附属光小中学校(平成10年)



### ちゃぶ台ルーム

平成17年度に、「ちゃぶ台」方式による協働型教職研修計画(取組期間 2 年)が、文部科学省の「大学・大学院における教員養成推進プログラム」に採択され、これに伴い、学生・現職教員・大学教員が協働して課題や失敗を分析・評価する省察の場として「ちゃぶ台ルーム」を開設した。



ちゃぶ台ルームの様子

## 経済学部・経済学研究科

### 1949 山口大学経済学部を設置(昭和24年)

自ら問いを見出し、解決の方策を探求する能力及び意欲を持ち、世界及び社会に貢献し得る実践的経済人を育成することを目的として設置された。



亀山の経済学部校舎

### 1954 商業教員養成課程を設置(昭和29年)



#### 創立60周年記念(昭和40年)

経済学部では、明治38(1905)年の山口高等商業学校の創立から起算して節目の年に記念式を行っている。

創立60周年は亀山の校舎での最後の記念式となった。



1973 山口市亀山から吉田に移転(昭和48年)



吉田キャンパスの経済学部  
(昭和48年)

1975 経済学研究科を設置(昭和50年)

経済、経営、法律等の社会科学の分野における高水準の教育研究を行うとともに、当該分野の高度専門職業人を養成することを目的として設置された。

1977 国際経済学科を設置(昭和52年)

1980 経済法学科を設置(昭和55年)

1994 経済学科、経営学科、国際経済学科を大講座に改組(平成6年)

1995 経済学部商品資料館を開館(平成7年)



商品資料館竣工  
(平成6年12月)



授業風景(平成10年)



東亜経済研究所中国文化賞受賞記念  
公開シンポジウム(平成10年)

## 医学部・医学研究科

1964 山口県立医科大学を移管し、山口大学医学部として発足(昭和39年)



山口県立医科大学キャンパス(昭和33年頃)



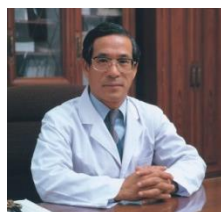
附属病院玄関(昭和34年頃)

**1967** 山口県立医科大学大学院医学研究科を移管し、医学研究科を設置(昭和42年)  
山口県立医科大学附属病院を移管し、医学部附属病院を設置

**1979** 医療技術短期大学部を併設(昭和54年)



医療技術短期大学部は、医学部附属の専修学校(看護学校、衛生検査技師学校)を母体として昭和54年10月に創設された。入学定員は看護学科80名、衛生技術学科40名。開校以来「心に愛を、手に技を」の校訓のもと、医療技術者の養成に努め、国家試験における高い合格率を誇り、看護学科1,654名、衛生技術学科773名の計2,427名の卒業生を社会に送り出した。平成12年10月に医学部保健学科に改組・転換されたが、伝統は引き継がれるとともに、より高度で国際的な人材育成を目指している。



創設準備から15年に亘り主事・部長を務められた松本昇教授



医療技術短期大学部実習風景

**1994** 創立50周年記念式典を挙行(平成6年)

山口県立医学専門学校が開設された昭和19年から起算して50周年を迎えた。



(上) 医学部本館  
(下) 医学部附属病院



小串キャンパス(平成10年)

**2000** 医学部保健学科を設置(平成12年)

**2001** 医学研究科応用工学系専攻(修士・博士)を設置(平成13年) ※工学部も関連

医学と工学との連携のもと、医療・福祉の新しい動向に即した理論と先端的医療機材の開発研究に必要な創造的な幅広い視野の人材育成を目的に設置された。



## 2003 医療技術短期大学を廃止(平成15年)



### ドクターカー

山口大学医学部附属病院と宇部市では、市民の救命率向上を図るため、平成15年8月から救急車医師同乗システム(通称:ドクターカー)を開始。



## 工学部・理工学研究科・医学研究科

### 1949 山口大学工学部を設置(昭和24年)



工学部正門(昭和35年)

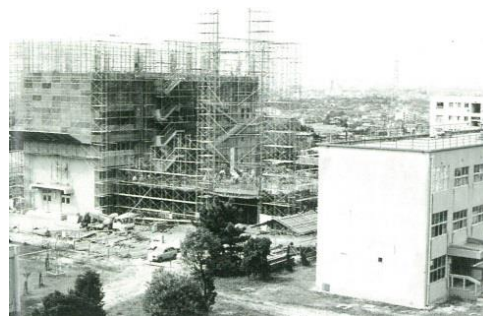
### 1953 工業短期大学部を併設(昭和28年)

### 1966 工学研究科(修士課程)を設置(昭和41年)

専門分野における理論と応用を教授研究し、精深な学識能力を持つ人材の養成を目的に設置された。



新本館(昭和45年)



建設中の電子工学科棟(昭和50年頃)

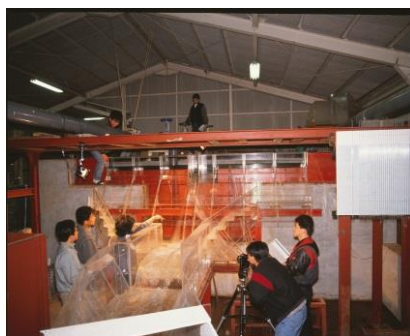
### 1990 工学研究科(博士課程)を設置、工学部全学科及び工業短期大学部を改組(平成2年)

工学研究科博士課程は、斬新な創造性と応用力に富み、先端技術の開発研究に挑戦する柔軟性と積極性を有し、研究開発のリーダーとなることを目的に設置された。

### 1993 工業短期大学部を廃止(平成5年)

### 1997 理学研究科を廃止し、工学研究科を理工学研究科(博士前期・後期)に改組(平成9年)

※理学部を参照



土木工学実験の様子



電池特性測定の様子



**ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー**

平成8年、独創的な研究開発の推進および大学発ベンチャーの創出支援・育成を目的として、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(YU-VBL)が設置された。この研究プロジェクトを推進するため、超高真空装置、電子描画装置、リモートセンシング解析装置等の最新設備が備わった。



(上) 玄関付近(平成10年)  
(右) 常盤キャンパス(平成10年)



**2001 医学研究科応用工学系専攻(修士・博士)を設置(平成13年)**

医学と工学との連携のもと、医療・福祉の新しい動向に即した理論と先端的医療機材の開発研究に必要な創造的な幅広い視野の人材育成を目的に設置された。

**農学部・農学研究科・連合獣医学研究科**

**1949 山口大学農学部を設置(昭和24年)**

**1952 附属農場を開場(昭和27年)**

**1953 附属家畜病院を設置(昭和28年)**



長府時代の農学部

## 1966 下関市長府から山口市吉田に移転(昭和41年)

農学部校舎(昭和42年)



家畜病院(昭和41年)



## 1969 農学研究科(修士課程)を設置(昭和44年)

学部における一般的ならびに専門的教養の基礎の上に広い視野に立って、精深な学識を修め、専門分野における理論と応用能力を有する研究者と技術者の養成を目的に設置された。

## 1990 連合獣医学研究科(博士課程)を設置(平成2年)

山口大学、鳥取大学、鹿児島大学、宮崎大学の各農学部獣医学科が連合し広範多岐にわたる地域的課題の解決を図ると同時に高度の開発能力を有する研究者を養成し、地域の発展に寄与することを目的に設置された。



### 連合獣医学研究科設立の経緯

獣医学系の博士課程構想は、昭和63年から獣医学科が従来の4年制から6年制に移行する動きにあわせて大学院連合獣医学研究科構想が論ぜられるようになり、平成元年、西日本地区(鳥取、山口、宮崎、鹿児島大学)及び東日本地区(帯広畜産、岩手、東京農工、岐阜大学)の両地区に、それぞれ獣医学科を有する国立大学が連合して組織する大学院連合獣医学研究科博士課程を創設する構想がたてられ、平成2年、西日本地区は山口大学大学院連合獣医学研究科、東日本地区は岐阜大学大学院連合獣医学研究科が設立された。



連合獣医学研究科棟



連合獣医学研究科落成記念式(平成5年)



生態系環境科学実験の様子



生物生産科学実験の様子

## 東アジア研究科

### 2001 東アジア研究科(博士課程)を設置(平成13年)

山口大学の地理的環境と研究の蓄積及び国際交流の経験に基礎を置き、東アジアの地域特性に対する深い理解を基盤として複眼的な視野と柔軟な思考力のもとに、問題解決のための高度な専門知識を發揮し得る人材の養成、指導の高度専門職業人の養成を目的に、後期3年博士課程の独立研究科として設置された。



東アジア研究科入学式  
(平成13年)

## 連合農学研究科

### 1989 鳥取大学、島根大学及び山口大学の3大学の連合により鳥取大学大学院連合農学研究科を新設(平成元年)

鳥取大学、島根大学、山口大学の各大学院農学系研究科(修士課程)の教員組織、研究設備及び施設を連合し、一大学のみでは成し得ない広範かつ専門性の高い教育研究分野を組織し、高度な農学系の大学院博士課程の教育研究体制を作ることを目的に設立された。